

みやぎの環境

NO. **3**

特集：くらしとごみ



1991

9

シンク グローバリー アクト ローカリー
Think Globally, Act Locally

仙台市国際交流員 キヤサリン・A・プライス

このごろ日本では国際化という言葉がよく使われます。国際的 (international) という言葉は、文字どおりには「国と国との間の」というような意味ですが、環境について考えてみるときは、あまり適当な見方とはいえません。私たちは、世界を単に国が集まったものとして見るだけでなく、すべての生き物がそこで生きる、限りのある惑星として、つまり、あらゆる生命を維持している自然環境と共存せざるを得ない惑星として見る必要があります。環境問題に対して地球的規模での意識を高めるようにしなければならないのです。

オゾン層の破壊、温暖化、熱帯雨林の減少、砂漠化、大気汚染と水質の汚濁、有害廃棄物の投棄など、今私たちは多くの地球的規模の環境問題に直面しています。

私たちは皆これらの問題を知っているのですが、大部分の人はそれらの問題の重大さに圧倒され、この状況を変えるために何かをするなどということではできないのだと思っています。このような考え方の問題点は、一人ひとりが地球的規模で環境を考えることを始めなければならないということです。だからこそ、私は“Think globally, act locally” (考えは地球的規模で、行動は足元から) という言葉を信ずるのです。一人ひとりが変化をもたらすことができるのです。

大切なことは自覚すること、気づくことです。たとえどんなに小さく、些細なことのようにみえても、行動することが重要なのです。そうすることが私たちに環境や身のまわりのことを気づかせるきっかけとなるからです。例えば、自分用の箸を持ち歩く、買い物の時不必要な包装を断わる、家庭からでるごみを分別する、物を大切にしリサイクルに努める、といったちょっとしたことがまさに「足元からの行動」なのです。一人のそういう行動に気づいた周囲の人々が、なぜそのようなことをしているのか考えるようになり、その結果、彼ら自身が地球環境についてもっと考え始めるようになるのです。

より多くの人々が足元からの行動をおこせば、社会の人々はより地球を意識したものへと見解を変えていくこととなります。一度人々の意識にこうした変化がおこれば、私たちは共に、私たちの環境を、そして私たちが生きていく惑星を守っていくために活動していくことができるようになるのです。

「考えは地球的規模で、行動は足元から」を、常に考えましょう。

(編集部訳)

みやぎの環境 第三号



表紙写真：秋の日差しを浴びる干柿(丸森町)

C	O	N	T	E	N	T	S
16	G	A	I	A			
15	七ヶ浜町汐見台	近江	隆				
14	仙台市太白山自然観察の森						
13	本棚・環境情報センターから						
12	NEWS・環境伝言板						
11	地球にやさしい商品						
11	「シンボルマーク」で						
10	野鳥のくる庭をつくってみましょう						
8	エコライフ						
3	静と動がきざむ彫刻						
2	特集◎物を大切にできる暮らしを考えよう						
	くらしとごみ						



特集

物を大切にすることを考えよう
くらしとごみ

処理場にあつめられたごみの山



地球人のゴミをひろう天使を可愛く、親しみやすくデザインしたごみ減量キャラクター。ふれあい、広がり、調和、飛躍を象徴しています。

ごみ減量キャラクター

平成2年度「宮城県ごみを考える作品発表会」最優秀作品
デザイン/石田 隆・石川和市（愛知県）

私たちは自分の出すごみを集積場で運び、目の前から見えなくすれば、すべておしまいと考えていませんか。ごみも石油や森林資源などが形を変えたものであり、地球の環境問題と密接に関わっているのです。

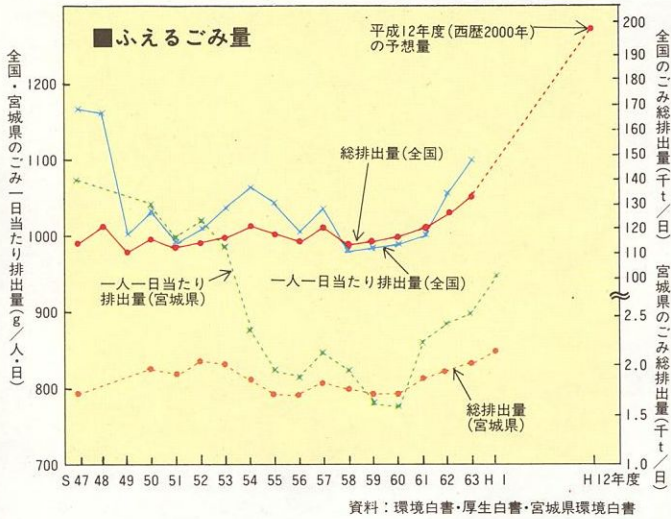
いま、私たちに求められているのは、便利な使い捨て型の暮らしを見直し、ごみを出さない暮らし方と物を大切にすることを考え、できることから始めることではないでしょうか。

一人ひとりの「もったいない精神」がごみ問題を解決する大きなカギとなるでしょう。

日本ごみ事情

こんなにも出るごみ 私たちが毎日出すごみの量は?

毎日何気なく捨てているごみ。いま、そのごみが深刻な問題になっています。厚生白書（平成二年度版）は初めてごみ問題を正面から取り上げ、このままではかけがえない地球がごみ埋立場になってしまうと警告し

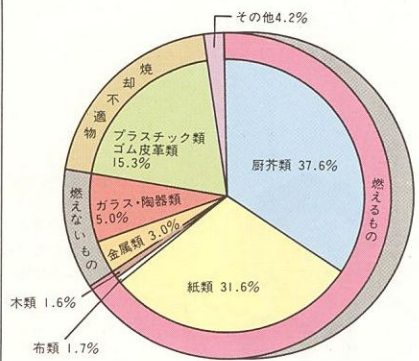


ています。昭和六三年度一年間に日本全国の家庭などから出されたごみは東京ドーム一三〇杯分に当たる約四、八三九万トンでした。これは国民一人当たり毎日一、〇八二グラム、一年間では三九四キログラムのごみを作ったこととなります。宮城県民一人が毎日出すごみは九〇一グラムで全国平均より一〇〇グラム程少なくなっています。しかし、県全体では年間七三万トン余りの大量なものになります。ごみは法律的には「廃棄物」といわれ、家庭などから出されるものは一般廃棄物として市町村の責任で処理されます。

ふえ続けるごみの量と 変化するごみの内容 ごみは文化のバロメーター?

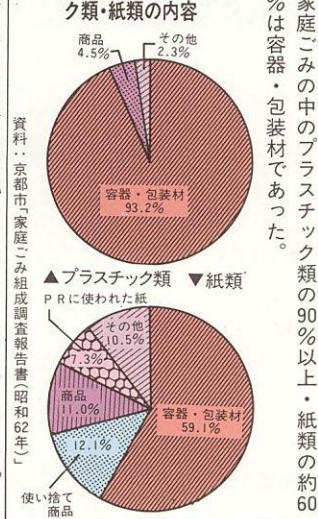
我が国のごみの量は高度経済成長の昭和四十年代に急速にふえ、昭和四八年の第一次石油ショック以後は発生量は横ばいだったのですが昭和六十年頃を境に再びふえ始め、次第にそのスピードが速まっています。本県の場合もほぼ同じ傾向です。このままの状態では昭和六三年度の約一・五倍にもなることが予想されています。昭和六三年度の全国のごみの増加量は前年度に比べて三・九パーセントふえ、東京ドーム五杯分にも当たりました。ごみは国民の暮らし方や経済的な豊かさを反映するといわれ、このことがまさにごみの増加

ごみの内容(仙台市)



(平成元年度小鶴・今泉工場平均値、湿ベース) 資料：仙台市環境事業局検査年報第15号

家庭ごみ中のプラスチック類・紙類の内容



やごみの内容に変化をもたらしたと言えます。昔は家庭から出るごみのほとんどは台所から出る調理くずや紙類、それに燃えないごみでした。いま、私たちの身の回りには使い捨て商品や過剰包装品であふれています。プラスチックなどによるワンウェイ化(使い捨て)の傾向がごみ増加に拍車をかけています。プラスチック製のペットボトルが年間十億本以上も使われている反面で、一升びんなど何度も使用できる容器(リターナブルびん)はめっきり少なくなりました。野菜、果物までがトレイやラップで包装されて売られています。これらの包装も家

庭へ入ればごみとして捨てられるだけのものです。また、オフィスからはOA化を反映して紙ごみが凄まじい勢いでふえています。もう一方で、生活の豊かさを求めて大型の家電製品やベツドなどが普及してきており、これらはごみになつた時に処理困難なごみと化しています。また、紙おむつの生産は過去七年間で五倍にもなり、それがまた衛生上厄いなごみとなりました。このように日常生活が快適で便利になつた半面、色々なごみがふえつづけているのです。

首都圏ではごみ埋立地は パンク寸前 急がれる処理施設の整備

ごみは一部がリサイクルされるほかは中間処理をして最後は最終処分場といわれる埋立地に埋め立てられます。

中間処理とは破碎、焼却などでごみを減量、無害化するもので、焼却によって重量で約六分の一、容量で約二十分の一程度に減らすことができます。

昭和六三年度には、全国のごみの七割強は焼却され、埋め立てられていましたが、残りの二割強は焼却可能なごみでありながらそのまま埋め立てられていました。これはごみの量の増大と内容の変化で処理能力が追いつかない施設があることによるものです。また、このことが最終処分場の寿命を縮めている結果になつてお

り、施設の整備が急がれています。しかし、いま、新しく最終処分場を作ることは、国土が狭いうえに地価高騰での用地難や周辺住民の反対などもあつて、かなり困難な状況になつています。

一兆円以上も使われている ごみ処理費用 タダではありません私たちの税金です

ごみ処理には収集・運搬から焼却などの処理、埋め立てまで膨大な費用がかかっています。昭和六三年度のごみ処理費用は一兆一、五四〇億円で国民一人当たりでは約九、四〇〇円にもなります。ちなみに本県の石巻市の場合は約十億円で、一人当たり約八、七〇〇円と、全国平均とほぼ同じになっています。

私たちはごみを出すときに特別に手数料が取られないので、ごみ処理にお金がかかっているという意識が薄いように思われますが、もう、ごみに無関心ではいられません。

ごみ減量とリサイクル社会をめざして

ごみを作らない そしてリサイクルを 身近にできることから始めよう

ふえ続けるごみは、「燃やして埋める」を基

本としてきた今までの処理方法ではどうにもならなくなってきました。そこで、ごみがふえるのをただ抑えるのではなく、積極的に減らしていくことが重要になりました。すなわち、ごみの減量とリサイクル(再利用)を着実にすすめていくことです。

使い捨て時代の現在、私たちの身の回りにはごみがあふれています。家庭から出すごみを減らすには買いすぎ、使いすぎ、使い捨ての生活を見直す必要があります。

一人ひとりが身近にできることからリサイクル社会づくりをすすめていきましょう。

一、ごみになるものを買わない

● 不要、不急のものは買わない。必要量だけ買う。

● 買い物には買い物袋を持ち、ポリ袋や過剰包装を断る。

● ワンウェイ容器入りのものは努めて買わない。

二、ごみにしない

● こわれても修理できるものは捨てないで修理やリフォームをしてなるべく長く使う。

● 知人などにあげたり、不用品交換会に出して他の人に使ってもらう。

● 古紙、空き缶などは回収業者やリサイクル団体などに出す。

「ゴミ減量化を語る女性の会」座長の松田さんは「過剰包装のものはなるべく買わない。買い物袋を持つ。紙、布、缶類、びん類はリサイクルへ。そして、生ごみは庭のコンポスト化容

器へ。こうすると残ったのはプラスチック製品のみ。一人一日一キログラムもだしていたごみが一〇〇グラムにまで減らせる。」と言います。また、一人一日一〇〇グラムのごみを減らせば全国で年間四五〇万トンの減量になり、約一千億円の税金が節約できることとなります。

**まぜればごみ、分ければ資源
ごみは財産、宝もの**

資源をくり返して使うリサイクルはまず、ごみを分別することから始まります。

ごみは分別し、同じ種類のものの集まりとすることに、経済的な価値が生まれてくる場合があります。例えば空き缶や空きびんがその良い例で、きちんと分別することによって、これらは鉄やアルミニウムあるいはガラスの原料として再び使用することができるようになります。まさに分別はリサイクルの原点なのです。分別・収集の方法は市町村によって異なりますので、もう一度自分のまちのごみルールを確かめてみませんか。



きちんと分別された資源ごみ
集積所(静岡県沼津市) 写真/環境庁

可燃ごみの内容



不燃・焼却不適ごみの内容



資料：東京都清掃局(平成元年度)

分別収集された「可燃ごみ」の中に10%以上の不燃物や焼却不適物が、また「不燃・焼却不適ごみ」の中に25%以上の可燃物が混入しており、分別のルールが必ずしも守られていないことがわかる。

一、家庭でできるリサイクル

生ごみを肥料(コンポスト)にする。紙類、布類、空きびん、空き缶などを資源にする。例えば家庭で新聞紙一年分(約七〇キログラム)をごみとして処理すると約一、七〇〇円の費用がかかりますが、再生紙の原料として利用すると原木(直径一四センチメートル、高さ八メートル)一本半を節約したことに同じ効果があり、限りある森林資源を守ることになります。

また、生ごみは土にかえすことで肥料になりますが、生ごみコンポスト化容器を用いると庭

先で手軽にたい肥ができます。この方法は一世帯当たり月二〇キログラムのごみ減量効果があるといわれ、これを積極的に広めるために県内の市町村では購入者に補助金を出してしているところがあります。皆さんのところで、この補助制度があるかどうかお住まいのまちにお問い合わせ下さい。石巻市ではこの制度によって、平成二年度までに三八一基が設置されています。

二、集団回収によるリサイクル

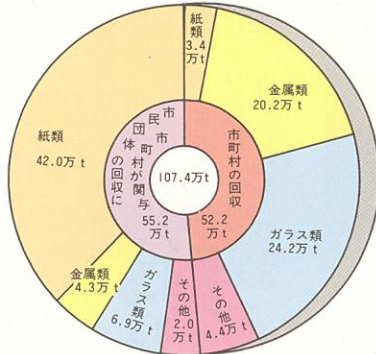
町内会、子供会などが行う集団回収に協力しましょう。まだ、行っていない地域では皆で協力して回収を始めましょう。

本県では仙台、石巻、気仙沼、岩沼の各市、大河原、迫、矢本の各町と大衡村が、資源ごみを回収している団体に奨励金や補助金を出しています。石巻市では昭和六三年度に二二三団体が資源回収を行い、九四九万円の収益をあげたうえ、市から四八七万円の補助金が支払われました。石巻市は、この制度を昭和五二年度からとり入れていますが、年々、団体数と回収量がふえ、ごみ問題への関心の高まりが見られるということです。

三、市民によるリサイクル

市民による不用品交換会、リサイクルバザー、フリーマーケット、ガレージセールなどが行われています。これらは単にモノを再利用するだけでなく、省資源・省エネルギーなど、地球にやさしいライフスタイルを実現しているという運動にもつながっています。

■資源ごみ回収の実績(昭和63年度)



資料：厚生省水道環境部「廃棄物処理事業実態調査」
市町村による回収と市民団体が行う回収に市町村がかかわった資源ごみの回収量は全ごみ量のわずか2%にすぎない。
しかし、処理費用からすると約256億円を節約したことになる。



手作業で行われているビン、缶などの分別(仙南リサイクルセンター)

四、市町村の資源ごみ回収によるリサイクル
昭和六三年度に資源ごみを回収したのは全国で六八三市町村でした。
本県の仙南リサイクルセンターでは白石市など二市七町の資源ごみと粗大ごみを収集して、資源を回収しています。平成二年度の回収量は三、六〇〇トンで収益金は三、七〇〇万円でした。この回収分を逆にごみとして処理すると約



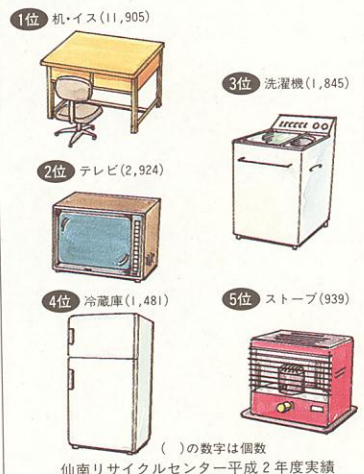
フリーマーケット 写真/東日本放送

八、六〇〇万円の費用がかかることになり、差し引きすると一億二、三〇〇万円の税金が節約された勘定になります。
リサイクルをすすめるきめ手は、再生資源を用いた商品を積極的に使い、広めていくことで

再生紙を使ったノートや雑誌、トイレトペーパー、再生プラスチック製品など沢山の商品があります。これらには本誌エコライフ欄で紹介しているエコマークなど私たちの手で、環境を守っていくことをすすめるマークがついています。

ごみ減量とリサイクルをすすめていくことは、省資源、省エネルギーを通じて地球環境を守る役割を果たすことになり大きな意義を持っています。また、ごみ処理費用の節約、埋立地の延命にもつながります。
ごみ減量とリサイクルは二一世紀にむけて、

■多く出される粗大ごみ



まさに私たち一人ひとりに課せられた大きなつとめなのです。

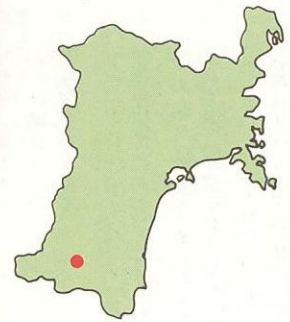
参考にした図書

- 一 環境白書 環境庁編 大蔵省印刷局
 - 二 厚生白書(平成二年度版) 厚生省編 (株)ぎょうせい
 - 三 地球にやさしいライフスタイルへの提言 (財)環境情報センター 第一法規出版
 - 四 地球にやさしい暮らしの工夫 環境庁編 大蔵省印刷局
 - 五 豊かさとりサイクル 経済企画庁国民生活局編 大蔵省印刷局
 - 六 リサイクルガイド (財)クリーン・ジャパン・センター
 - 七 ごみなんでも事典 米村洋一編 中央法規
 - 八 快適生活のためのゴミQ&A (株)NTTメディアスコープ
 - 九 環境白書(平成二年度版) 宮城県保健環境部
- 参考図書はすべて環境情報センターで閲覧できます。

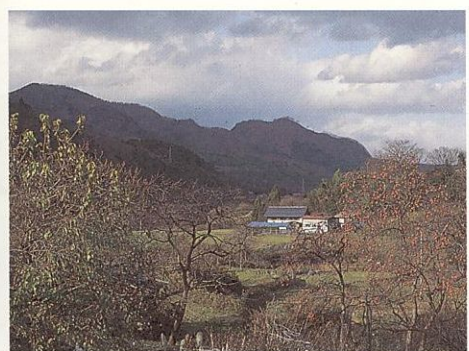
静と動がきざざむ彫刻

(財)宮城県伊豆沼・内沼
環境保全財団主任研究員

柴崎 徹(文と写真)



小原溪谷・碧玉溪
へちまやうへい



鎌倉山の涅槃仏



小原街道から俯瞰した碧玉溪



小原街道にある蘇峰の碑



壺穴と水で磨かれたひん岩の貫入岩石



断崖と巨石

川は時として、山々に行手を阻まれる。出口を失いかけた川は、それでも果敢に山の弱点を突いてそこに鋭利な地形を刻む。その生きた姿が溪谷なのである。蔵王や七ヶ宿の広大な水を集めて流れる白石川、奥羽山脈より三〇キロにわたり流れ下ってきた白石川が、行手を阻む鉢森山や鎌倉山の山々に抗してつくりあげた溪谷こそ小原溪谷である。徳富蘇峰はこれを「碧玉溪」と名付け

た。清清とした緑に覆われ、高い断崖が連なる細い溪谷は、白石川が磨きあげた碧玉なのであろう。小原温泉から吊橋を渡って入る溪谷の内部は実に変化に富んでいる。谷を埋めんばかりの巨石群、ひときわ高く聳える入道岩、谷を跨ぐ堅いひん岩の自然橋、深い淵、まん丸に挟られた壺穴群、そのひとつひとつが自然にしかつくり得ぬ見事な彫刻になっている。山と川とが激し



く競うこのような溪谷では、たがいに優柔を許さないからであらう。滝もたくさん懸る。蝦夷倉沢は奔流する滝となって溪谷に注ぐ。谷の側面からいたるところで湯けむりが上がっているのも、ここならではの風景である。溪谷の頭上には、鎌倉山のつくる涅槃仏が静かに横たわっている。

●交通案内●

JR東北本線白石駅から宮城交通バス七ヶ宿方面行きに乗り、約一四分で碧玉溪に着く。ここからは溪谷を一望でき、傍らには徳富蘇峰の詩碑が建つ。国道一一三号線(小原街道)にそって小原温泉の方向に少し行くと、小久保平入口バス停付近で溪谷に下りることができ、小原温泉までの約三キロの間、溪谷に沿って遊歩道が整備されている。徒歩約一時間。

野鳥のくる庭を つくってみましょう



野山の木の実がなくなる頃、庭やベランダにバードテーブルを置いてみましょう。

県内で見られる野鳥は三〇種。庭やベランダに呼ぶことができるのは、スズメ・ヒヨドリ・ムクドリ・ツグミ・シジュウカラ・レンジャクなど約二〇種です。

わたくし達の身近な生き物を通して自然に親しましましょう。



シジュウカラ(上)とヒレンジャク(下)
写真/米地和夫(仙台市)



◆水場をつくる

小鳥は水浴びが大好きです。流れる水場が理想ですが、なければ大きめの素焼きの皿を使ってもよい。明るくて見通しのよい地面におく。入れる水は水深3~4センチメートル位とする。

◆実のなる木を植えましょう

餌の不足する冬期に実が熟する木を選び植えておきましょう。

ピラカンサ(ツグミ、ヒヨドリ、ジョウビタキ)、ウメモドキ(ムクドリ)、ナンテン(メジロ、カワラヒワ)、カキ(オナガ)また、ツバキ、サザンカ、ボケ、サクラなどには小鳥が蜜をすいできます。



◆餌台のつくり方

青竹を2つに割り水抜き穴をあける。両端に穴を2つずつあけて、ひもを通し木の枝などに吊す。ベランダには木製の菓子箱などでもよい。

◆餌台のとりつけ方

猫などに襲われないように、見通しのよいところに、地面から1.2メートル以上の高さになるようにとりつける。



警戒心の強いスズメが安心して餌を食べるようになれば、ほかの鳥もやってきます。

「シンボルマーク」で

裏庭の焼却炉から今日も煙がゆつくと風向きを教えしてくれる。ダイレックトメール、包装紙、スーパーのバック、紙袋、あふれんばかりの紙屑である。それ等を燃やし片づけることから田の一日の仕事が始まる。ゴミが溜まるくらいお金が溜つたらすぐさま大金持ちね。」と、ゴミの多さにあきれて母はよく言う。

昨日の我が家の台所のゴミを見ると、お歳暮に載いた魚のゴミがあつた。魚の切身一つに対して、一番最初にガーゼで包まれ、その上をビニールで包装され、そしてのし紙で包まれ、それが箱に入れられ、その箱は専門店の包装紙で包まれて最後はデパートの包装紙で仕上げとなっている。なんと六重もの嚴重な包装である。母の話にすると、驚いたことにのし紙の包装は包装紙一枚二百円、切り身一つの包装に商品の六分の一の価格をかけているのである。それらの紙は全てゴミとなって焼却炉へ行く、わずかな命なのである。



仙台市立五橋中学校

阿部映子

周囲を見まわすと、私がいつも買い求める本もそうである。一冊の小さな本にもその本屋の表紙を新たに付け、紙袋に入れてくる。無駄な包装である。これらは全部紙でできているのだから、バルブつまり木々、緑を燃やしていることになる。紙屑を出さないということとは、資源をも大切にすることということにつながるのではないだろうか。

ここで一つの提案をしたい。買った品物には、そのお店のシンボルマークをシールにして貼れば、それが買った商品だと一目で分かる。シンボルマークだけで、一斉に過剰包装をなくすれば、自身の真の価値を知る目を養うことにもなる。包装に惑わされない消費者になりゴミを出さないことは、これからの私たちにとって最も大切なことだと思つ。

資源には限りがある。その資源を守るのは、私たち一人ひとりの責務ではないだろうか。

（平成2年度「富城県」を考える作品発表会「最優秀作品」）

地球にやさしい商品

（使い方）

日当たりのよい場所を選び、地中5cmぐらいの深さに容器を埋めて、生ごみをいれるだけです。庭の雑草、落ち葉の処理にも適しています。

夏なら約1ヵ月、冬なら約3ヵ月で堆肥になります。菜園や花壇の肥料にご使用下さい。

（参考）

価格は大きさ100～600リットル程度で5千円から3万円ぐらいです。

ごみ減量とたい肥づくりに

コンポスト化容器

生ごみをたい肥に変える。
ごみを生かす商品があります。

台所から出る調理のくずをそのまま捨てないで、たい肥(コンポスト)にして活用すれば、一挙両得。家庭で簡単に実行できる容器があります。そんな商品にエコマークがついています。



※10社の製品にエコマークがついています。(91.3現在)



エコマークです。
どうぞ、よろしく。

エコマークとは「私たちの手で、地球を、環境を守ろう」という気持ちを表した、環境保全に役立つ商品につけられるシンボルマークです。環境 (Environment) と地球 (Earth) の頭文字「e」が人間の手の形となって、地球をやさしくつつみ込んでいるデザインになっています。

(エコマークの「エコ」とは私たち人間や生物が生きているよい環境という意味です)

●環境教育用副読本

「宮城の自然と環境」ができました

県では、学校での環境教育を効果的にすすめるため、小学校高学年向けの環境教育副読本「宮城の自然と環境」を作成し、県内（仙台市を除く）の小学校に配布しました。作成にあたっては学職経験者や実際に教壇に立たれる先生方に執筆・編集をお願いしました。この副読本は100ページほどのもので、使用する教科を特に定めず、理科でも社会科でも利用できるよう配慮されています。内容は県内の自然環境の紹介が中心で、街や田園、里山、自然林などにすむ動植物の生態についてわかりやすく解説しており、また自然環境と人間生活の関係の歴史にも言及しています。残念ながら当副読本は残部がほとんどなく、一般の方にお届けすることはできませんが、環境情報センターまたは保健所で閲覧することができま。なお、平成三年度には、中学生を対象とした副読本を作成する予定です。

●バック連全国大会開催される

第五回牛乳パックの再利用を考える全国大会（バック連）が、七月二十日と二十一日の二日間にわたって仙台市の東北大学川内記念講堂で開かれ、「緑の地球をこどもたちへ」のテーマのもと、北は北海道から南は鹿児島まで、日本全国から約1,000人の参加者を得て活発な情報交換が行われました。第一日目は兵庫

教育大学山田卓三教授による記念講演にはじまり、つづいて環境庁、自治体、製紙業、乳業、流通業、バック連のそれぞれの代表による「牛乳パックがつくるサイクルネットワーク社会」と題したパネル討論が行われました。このなかで、運動の創始者でもある平井初美会長は、市民や企業、自治体での牛乳パック再利用運動の現状と今後の課題や問題点について概要を述べたあと、「子供たちにもこの大切さを教えたい」との思いから始めた牛乳パックの再利用運動も今年で八年、この運動は当初から牛乳パックを媒介にして出会った人達との絆を大切にしながら、お互いの生き方を照らし合う運動でありたいと願ってきた。地球環境問題も足元のごみ問題も、結局は個々の生き方が問われることである。社会との関わりの中で自分はどう生き、どう行動するかを考える人達のネットワークが大きく広がっていることとを願っている」と、あらためて運動の原点を強く訴えていました。

第二日目は、地域や学校、自治体、企業などにおける事例や活動の報告、情報交換が四つの分科会に別れて行われましたが、どの会場も座れない人がでるほど盛況で、熱心な討議が繰り広げられました。

会場ではこのほか牛乳パックを利用した紙すきの実演や作品の展示即売、十畳大の紙をすく世界一の紙すき挑戦、巡回美術展など、さまざまな催しが併せて行われ、子供たちやお母さんたちの歓声や笑顔が期間中絶えませんでした。

環境伝言板

●第二回地域環境保全シンポジウム

ふるさと川

きよらかな水をもとめて

昨年の塩釜地域につづいて、今年は大崎地域で環境保全シンポジウムが開催されます。県内随一の穀倉地帯である大崎地域は、また江合川、鳴瀬川の二大河川を擁する豊かな水に恵まれた地域でもあります。今回は、この水を守るうとさまざまな活動に取組んでいる人々の事例を紹介するとともに、どうしたら水質の悪化を防ぎ、よりよい水環境を求められるのか、またそのために私たちに何ができるのかを考えます。

●日時 平成三年一〇月三〇日(水)

●場所 中新田町文化会館(バックホル) ●参加費は無料、どなたでも参加できます。詳しくは大崎保健所環境公害課(電話〇三九一一三六一)までお問い合わせください。

●泉ヶ岳緑と紅のシンフォニー

秋を探してみませんか

泉ヶ岳青年の家では「泉ヶ岳緑と紅のシンフォニー」(秋編)を一〇月二二日(土)、二三日(日)の二日間にわたって開催します。この催しは、泉ヶ岳の豊かな自然のなかでいろいろな体験活動とおして森林文化と自然環境保全を考えるとともに、世代の異なる人達との交流を深めるなかで心の豊かさを養い、心身の健全な育成とふるさとを自然を愛する心を育てることを目的として行われるものです。今回は加藤陸奥雄東北大

学名教授を講師に迎えて泉ヶ岳のブナ林をたずねます。参加費は一人三、五〇〇円で、だれでも参加することができま。申込みは先着順で、定員(六〇名)になり次第締め切りますので、参加を希望される方は早めに宮城県泉ヶ岳青年の家(千九八一—三三仙台市泉区福岡字岳山九一六電話〇二二—三七九—三三二)までお申し込みください。

●「ごみと上手につきあう方法」を

みんなで考えよう

ごみ問題は、いまや大きな社会問題となっています。山元町では、空きカンや空きビンなどの散乱ごみの防止と家庭ごみの減量化をめざして、どうしたらごみと上手につきあえるかを町民みんなで考える「護美シンポジウム」を開催します。当日は、村田町在住の陶芸家であり、また「宮城県民全員が大地に空きカンや空きビンを捨てたりしなくなる日を見える会」の会長でもある吉川団十郎さんによる講演のほか、地元でごみとうまくつきあっている方や、リサイクル活動を実践している方々の事例紹介を中心に、参加者全員でごみ問題と、そしてごみをおして身近な環境の問題を考えます。

●日時 平成三年一〇月二二日(水) 午前九時三〇分から ●場所 山元町山下公民館大ホール ●参加費は無料です。山元町民以外の方も参加できます。●問い合わせ先 山元町環境保全課(電話〇三三—三三七—一一七)

『地球汚染Q&A』

君たちの未来が危ない

地球環境問題をわたくし達が耳にし、目にし、そして語るようになってから久しくなる。

しかし、書店で気軽に立ち寄って、しかるべき本を見つけようとすると、なかなか見つけれられないのが実状である。あつたとしても、ほとんどは、あまりに専門的すぎたり、読み進めるのに相当に根気が必要とされるものばかりである。

その点、本書は、内容が平易でありながら一読することにより、現在の地球環境問題について、かなり知ることができると同時に、これらの問題について、日本の責任と、今わたくし達が何をすればいいのか、何ができるのかを知ることができる。

三〇年後、四〇年後に地球温暖化を含む環境汚染が深刻化すると予測されている中で、その時代を生きてゆく現在の若者達（子供達）が大いにこれらの問題について考え、行動することが必要であるのだが…。

また、地球環境汚染を招くこと大いに関わりもってきた大人達に、

立ち止まって経済発展至上主義について考え、今何をすればいいのか、何ができるのかを考え、思慮深く行動することを求めている。(C)



編著 根本順吉
発行 岩波書店

岩波ブックレット No.147

定価 三五〇円

パンフレット利用のご案内

環境情報センターでは、環境庁や(財)日本環境協会などが製作した各種パンフレットを収集し、市町村や地域の環境保全グループが行う講演会や展示会など、さまざまなイベントの資料として提供しています。現在、センターで用意しているパンフレットは下の表のとおりですが、なかには部数が十分ないものもありますので、利用を希望される方はあらかじめお問い合わせください。

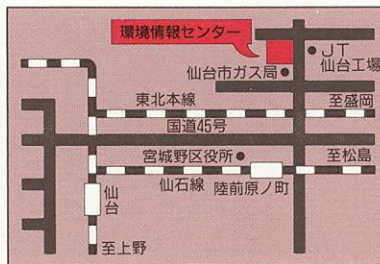
ビデオ・ライブラリー

『もったいないの精神』

(財)クリーン・ジャパン・センター 昭和59年度製作
料理には、その素材の特徴を上手に生かした、いろいろな調理法があるように、廃棄物を単にごみとしてみるのではなく、「もったいない」という精神で見ると処理の仕方によって各種の用途が開けてくる。本ビデオでは市民参加の分別回収、不用品交換や、リサイクル事業に成功している企業等さまざまな「もったいない精神」を紹介している。

(VHSカラー-22分)

〒983 仙台市宮城野区幸町4-7-2
宮城県保健環境センター1F
宮城県環境情報センター
TEL 022(257)7181 内線29
利用時間/月～金曜日、午前9時から午後4時まで
休業日/土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



パンフレット名	発行者
みんなて守ろう地球の環境(一般向)	(財)日本環境協会
みんなて守ろう地球の環境(子供向)	(財)日本環境協会
ちきゅうにやさしいエコマークです	(財)日本環境協会
地球の温暖化	環境庁企画調整局地球環境部
資源とエネルギーを大切にみんながエコマン(まんが)	経済企画庁省資源・省エネルギー生活推進室
あなたにもできるリサイクル	グラフィックインテ-ナショナル(株)
リサイクルガイド	(財)クリーン・ジャパン・センター
紙は紙になり、暮らしをつくる人から人へ。紙から紙へ。	日本製紙連合会
森林資源を大切に利用しています	日本製紙連合会

仙台市太白山自然観察の森

森に四季を追いかけて

太白山自然観察の森は、ヒメギフチョウやミヤマカラスアゲハ、オオムラサキなどの生息地として知られる太白山と、佐保山モミ天然林で知られる鉤取山国有林のちょうど中間に位置する地域に、平成三年六月六日オープンしました。

都市化が進むにつれて遠くなくなっていく自然。自然を知らない世代が増えつつある今日、都市近郊に残っている自然を活用し、自然とのふれあいを、あるいは自然との体験を通して、自然保護の目を養うことを目的としてつくられました。広さ三〇ヘクタールの園内には約四・二キロメートルの観察路や、カタクリの広場、チョウの野原、トンボの沢など九つの施設のほか、園内でみることができる植物や昆虫を展示した自然観察センターがあります。

しかし、ここでは森を実際に歩き、自分の目で動植物を観察してもらおうのが中心です。そのため園内の観察路には、二〇〜四〇メートルおきに番号つきの表示杭があ

って、観察センターに用意されている地図をたよりに観察することができますほか、レンジャーの解説を聞きながら観察したり、観察の方法の指導を受けることができます。

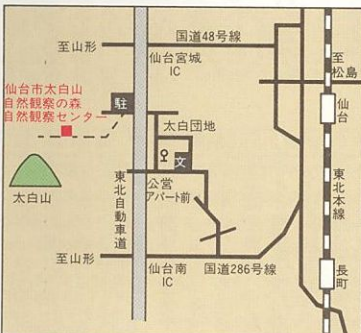
四季おりおり変化をみせる植物や鳥たち、昆虫たちの生きる姿を、ゆっくりと眺めてみませんか。



カタクリの花とヒメギフチョウ

利用案内

- 住所 〒982-02 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
TEL. 022-244-6115
- 開館時間 午前9時〜午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日〜1月3日)
- 入館料 無料・入園される方は自然観察センターにお立ち寄り下さい。
- 団体/団体でのご利用は、10日前までにお申込み下さい。



交通▶仙台駅バスプールまたは宮城交通長町ターミナルから宮城交通バス山田自由ヶ丘行き太白団地公営アパート前下車徒歩15分。



自然観察センター

七ヶ浜町汐見台

生活の庭としての道

東北大学工学部助教授 近江 隆

汐見台は我が国で最初にボンネルフを実現した住宅地である。ボンネルフはオランダ語で「居住地域」を意味し、現代の車優先の道路や居住地の在り方を根本的に問い直している言葉でもある。ドアから一步踏み出せば外はすべて子供の遊び場であるとの考えに立つボンネルフは、居住区域の道路での子供の遊びや母親の行動を重視し、車と人間との関係を人間優先の視点から再編成しようとする。

ところで、ボンネルフは歩行者専用の空間ではなく、車と人が共存する空間である。そこにはこの関係を制御するためのさまざまな仕掛けが施されている。ハンブ（段差、屈曲部、駐車場所を示す明確な標示等である。これらの仕掛けは交通の制御を越えて住宅地の景観にも変化をもたらしている。

しかし、ボンネルフの最も重要な効用は、住宅地を形作る空間の形態、材料、色彩、サインそれぞれが、具体的意味をもって人々に語りかけ、そこに存在する「空間の作法・礼法」を人々が了解するという「人と環境のコミュニケーション」を分かりやすく成立させたことにある。



細街路入口に白く帯状に設けられたハンブ(段差)

交通

JR仙石線多賀城駅前から宮城交通バス汐見台団地行きで約20分。汐見台3丁目下車。



汐見台団地のボンネルフ道路。左側に植栽が見える。

GAIA

ガイア

「 緑 」

東北大学理学部付属植物園

内 藤 俊 彦

緑滴る山野、わが国は世界でもなだたる緑の多い国である。この緑の多い国で、緑の戦争が展開されている。

高山で、観光登山による褐色の線。山地では、ブナ林の伐採による赤茶けた色。丘陵地や平地で、住宅地、工業団地の造成による人造物の増加。海岸では、防潮堤の灰色。これらは緑と人間の戦いの戦果である。このような人間の行動が無いと、現代の人々は生活の基盤を失い死に至るのである。一方で、これらの緑を守れと言う運動が盛んに行われている。しかし、森林を伐採することで、住宅を建設し、コンピュータからは白い紙が止めどもなく排出されているのである。また、住宅地では公園に植えられた樹木の緑が虫達を養い、日陰を作るのが邪魔であると言い、緑は失われている。

禅 師 「無くとも有っても困るものは」
修行僧 「緑、みどり、ミドリ」いかか。
禅師はたと手を打ちにけり。

GAIA(ガイア)とは「生きる地球」という意味で使われる環境についての用語。もとはギリシア神話で大地の女神のこと。

「みやぎの環境」第三号平成3年9月30日発行(年2回3月・9月発行)

●発行所 〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目七番二号

宮城県環境情報センター

●印刷 株式会社ソノベ

●編集委員 高橋富基、中村栄一、平 富貴(保健環境センター)、田中紀彦(環境管理課)、菅原康弘(環境保全課)、小林晴紀(廃棄物対策室)、千葉孝男(塩釜保健所)、吉田祐二(石巻市)、伊藤禮子(山元町)

この冊子は再生紙を使用しています。